

禅のまち永平寺町の魅力を発信 町民すべての笑顔を求めて

来春の町長選に出馬表明した河合永充永平寺町長。41歳の若さで町長に就任以来、一貫して地方創生に向け多様な支援と切れ目のない施策を推進してきた3期12年を振り返り、4期目に向けての課題と抱負を語ってもらった。

禅「ZEN」をテーマに国内外に発信

九頭竜川の清流とともに豊かな自然に囲まれ、国内外にも知られる曹洞宗大本山永平寺を擁する永平寺町だが、町長に就任以前から永平寺観光の減少が町の課題となっていた。これを打開しようと、門前地区が中心となつて新しい組織が立ち上がった。地域主体の「禅の里」まちづくり実行委員会はお寺や門前の景観だけではなく、精進料理や伝統的な調度品など取り巻く文化も組み入れ魅力的な町にしようと動き出した。この取り組みを町全体の「物・食・人」を中心に据えた禅「ZEN」をテーマにしたブランド戦略へと発展させていく。

そして、永平寺と同町、県が協力して禅（ZEN）を体感できる環境づくりを進める門前再構築プロジェクト事業が始動。一般の旅行者や外国人が寺の雰囲気を手軽に楽しめる宿泊施設を核に、旧参道の再生と旧参道沿いを流れる永平寺川の改修が進められた。町では農業資源や文化的資源を活かした永平寺町らしい、永平寺町ならではの地域産品を町ブランド「SHOJIN」として認定。九頭竜川の清らかな水は豊かな土壌をもたらした、他にはないこの地だけの美味・技を生み出した永平寺ならではの逸品。上志比になく・永平寺そば・五領たまねぎ・ゴマ豆腐・れんげ米・清酒……。オリジナル形状記憶ニット生地の仕事衣も。町の一大イベント「大燈籠ながし」を、禅の文化として発信するなど、永平寺町の知名度アップや観光振興、地域振興につながっていく。

令和5年3月の北陸新幹線県内開業に向けて、およそ10年をかけて取り組んできた禅ブランド。その地道な努力が実を結び、世界で活躍するウエルネス事業関連の専門家にも注目され、町の魅力を内外に発信する機会を得て、国内はもとよりインバウンド受け入れ数が前年比166・2%、コロナ禍前と比較しても113・6%と伸びている。



門前町のお店で食べられる精進料理

一方、福井大学医学部や県立大学永平寺キャンパスなどを擁する学園都市でもある。福井市や坂井市に隣接し、中部縦貫自動車道が開通、北陸